

第9号

奈良  
国立博物館  
だより

平成6年 4・5・6月



特別展「運慶・快慶とその弟子たち」

5月28日(土)～7月3日(日)

本館

特集展示「密教の美術」

4月19日(火)～5月8日(日)

本館

特集展示「法華経」

5月28日(土)～6月26日(日)

新館北陳列室

平常展「仏教美術の名品」

4月23日(土)～5月22日(日)

新館

5月28日(土)～6月26日(日)

新館

国宝 精緻羅童子立像 (木造八大童子立像のうち)

和歌山 金剛峯寺

木造彩色 玉眼嵌入 像高95.6cm

金剛峯寺不動堂不動明王像の眷属である八大童子像のうちの一体で、『高野春秋編年輯録』に建久九年(1198)運慶の作と記す像に該当すると思われる。童子らしいふくよかさを残しながらも、目を遠方に見据えて口元をぐっと引き締めた精悍な表情や、合掌し独鉢杵を構えた一瞬間に凝縮された姿勢の卓抜な造形力が見事である。X線撮影によると像内に月輪形銘札が納入されていることが知られ、他の運慶作品との強い関連性が指摘できる。(特別展「運慶・快慶とその弟子たち」より)

## 特別展「運慶・快慶とその弟子たち」 5月28日(土)～7月3日(日) 本館

鎌倉時代に活躍した運慶・快慶を中心とする慶派仏師の作品を紹介する。

運慶は、新しい時代を迎えた歴史の舞台の主役となった武士の気風に接しながら、それを彫刻に体現し、かつてない力強い作品を作り上げ、父の康慶とともに慶派隆盛の基礎を築いた。一方、快慶は運慶とともに清新な作風を学び、その造像に協力しながらも、東大寺の復興を指揮した重源上人の影響を受けて真摯な阿弥陀信仰者となり、端整で美しい数多くの阿弥陀如来像を残した。

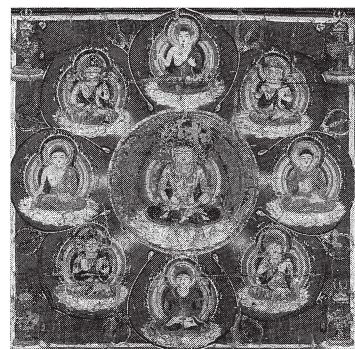
また、かれらと同時代に活躍した定慶は、宋風を強く取り入れた独特的な作風を示し、また近年、新たな作品が発見されたことにより、運慶・快慶の周辺にいた源慶、宗慶、実慶といった仏師の動向も知られてつつある。

運慶、快慶のあとも運慶の子息湛慶など、二人の作風を総合して展開させた優れた仏師が、快慶の弟子からは行快や栄快が登場して、わが国彫刻界における慶派の位置をゆるぎないものとした。さらに、次世代の康円、康誉、康俊らは、伝統を継承しながら、名作を世に残した。

本展は、こうした主要な慶派仏師の作品を一堂に展示し、個性豊かな作風に接していただけるまたとない機会である。



●木造大日如来坐像—運慶作—(円成寺)



●両界曼荼羅のうち胎藏界(東寺)部分

## 特集展示「密教の美術」

4月19日(火)～5月8日(日) 本館

密教は平安時代に最澄や空海によって体系的な教理がもたらされ、大きな広がりを見せるが、それとともに密教の教理に基づいた様々な仏像や曼荼羅・図像、実践行に用いる法具などがさかんに制作された。この特集展示は、密教にちなんだ彫刻・絵画・工芸の名品を展示し、密教独自の豊かな美術を紹介する。とくに絵画の分野で、伝真言院曼荼羅として名高い●両界曼荼羅(東寺)と●子島曼荼羅(子島寺)の平安時代の大作が一堂に展示されるのはまたとない機会であり、あわせて青不動として知られる●不動明王二童子像(青蓮院)や●五大尊(来振寺)、●十二天像(西大寺)など、わが国密教画の名品を展示する。工芸の分野では、厨子の奥壁に曼荼羅を描いた遺品や、密教寺院伝来の舍利容器、密教的な意匠を取り入れた華鬘や箱類のほか、密教の実践行に欠くことのできない様々な法具を展示。彫刻では、如意輪観音や千手観音、不動明王のほか、天部像を中心に展示する。

## 特集展示「法華経」

5月28日(土)～6月26日(日) 新館北陳列室

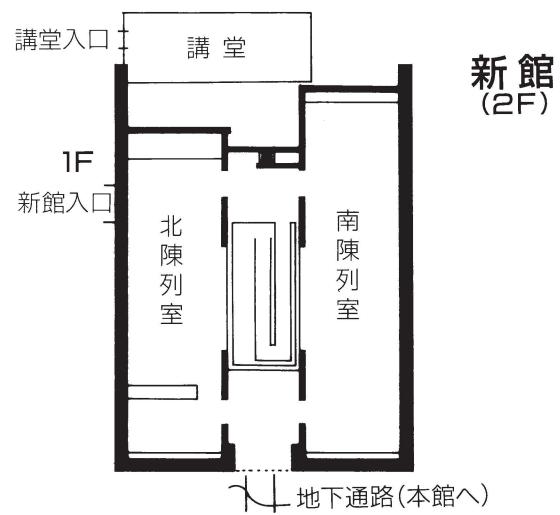
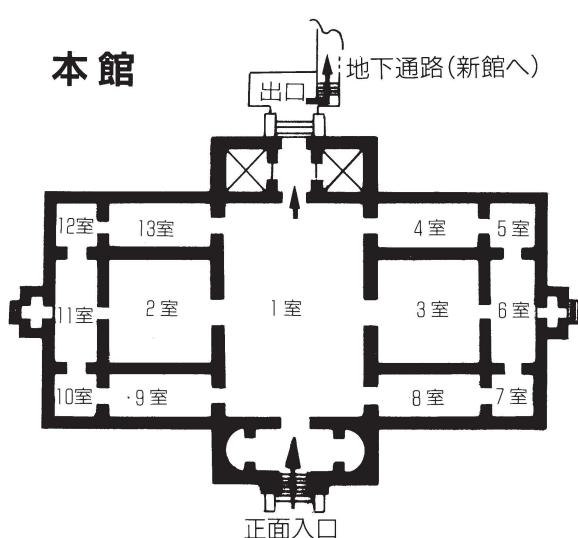
平安時代には法華経への信仰が高まって、法華経の経巻にさまざまな装飾が施されるようになった。金銀で書写することのほかに、見返し絵や下絵を描いたり、金銀の箔を散らすなど、多種多様の技法が使われるようになった。今回は、こうした美しい法華経の名品を紹介する。

## 平常展「仏教美術の名品」

4月23日(土)～5月22日(日) 新館

5月28日(土)～6月26日(日) 新館

当館で収蔵・保管する館蔵品・寄託品の中から、国宝・重要文化財を含む多数の仏教関係の優品を展示し、飛鳥時代から連綿と続く多彩な仏教美術を紹介する。彫刻・絵画部門は、金銅仏、木彫像を中心に像種別に展示。絵画部門は、大乗仏教、密教など種類・主題別の展示。書跡部門は、経典や仏教関係の古文書。工芸部門は、いわゆる仏具が中心で、仏堂を飾り、仏を供養するための用具などを陳列。



(ミュージアムショップは1階東側、ハイビジョンギャラリーは入口西側にあります)

## 主な展示品

本館		新館	
四月	4月4日(月)～4月18日(月) 展示替のため休館	四月	4月4日(月)～4月22日(金) 展示替のため休館
特集展示「密教の美術」 4月19日(火)～5月8日(日)	<p>【主な出陳品】          ○絵画〔第1室〕 ◎両界曼荼羅(子島寺)、◎両界曼荼羅(東寺)、◎不動明王二童子像(青蓮院)、◎十二天像のうち2幅(西大寺)、◎一字金輪曼荼羅(当館)、◎紅玻璃阿弥陀像(長命寺) 〔第2室〕 ◎大仏頂曼荼羅(当館)、◎五大虚空藏曼荼羅(大覚寺)、◎文殊菩薩像(宝寿院)、◎愛染明王像(宝山寺)、◎胎藏像(当館)、◎高雄曼荼羅図像(長谷寺)、◎理趣經曼荼羅図像(当館)</p> <p>【彫刻】〔第1室〕 ◎木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造如意輪觀音坐像(当館)、◎木造千手觀音立像(園城寺)、◎木造不動明王二童子像(新薬師寺)、◎木造十二神将立像(東大寺)、◎木造広目天立像(興福寺)、◎木造梵天立像(秋篠寺)</p> <p>【工芸】〔第3室〕 ◎黒漆両界曼荼羅厨子(当館)、◎黒漆首懸駄都種子曼荼羅厨子(当館)、◎金銅透影舍利殿(西大寺)、◎金銅火焔宝珠形舍利容器(海龍王寺)、◎金銅種子華鬘(兵主大社)、◎輪宝羯磨獅子文戒体箱(万徳寺)、◎銅三鉢鏡(円福寺)、◎金銅密教法具(巖島神社)、金銅密教法具(西大寺)、◎金銅四天王五鉢鏡(称谷寺)、◎金銅四種子五鉢鏡、◎金銅三昧耶五鉢鏡(金峰山寺)、金銅独鉢杵(松尾寺)、金銅三鉢杵、金銅五鉢杵(施福寺)、◎金銅独鉢鏡、◎金銅宝珠鏡</p>	彫刻	<p>4月23日(土)～6月30日(木) (5月23日(月)～27日(金)は陳列替えのため休館となります) 南陳列室(〔北〕とあるもののみ北陳列室)</p> <p>【如来】 ◎銅造誕生釈迦立像及び灌仏盤(東大寺)、木造山釈迦如来立像(当館)、銅造釈迦如来立像(光明寺)、◎銅造薬師如来立像(般若寺)、木造大日如来坐像(元興寺町)、◎木造阿弥陀如来坐像(念仏寺)(〔北〕)、◎木造阿弥陀如来坐像(安楽寿院)、木造阿弥陀三尊像(峰定寺)、◎銅造阿弥陀三尊像(東京国立博物館)、◎木造阿弥陀如来坐像</p> <p>【菩薩】 ◎木造弥勒菩薩坐像(薬師寺)、◎木造薬師如来立像(称名寺)(〔北〕)、◎木造聖觀音菩薩立像(西南院)(〔北〕)、◎木造准胝觀音立像(常盤山文庫)、◎木造聖觀音立像(本山寺)、◎木造聖觀音立像、◎木造竜猛菩薩立像(金剛峯寺)、【写真】 ◎木造明星菩薩立像(弘仁寺)</p> <p>【明王】 銅造不動明王立像(当館)、木造愛染明王坐像(当館)、銅造軍荼利明王立像(園城寺)、【天】 木造十二神将立像(当館)、木造毘沙門天立像(当館)、◎木造增長天立像(称名寺)、◎木造增長天立像(法明寺)、◎木造大黒天立像(興福寺)、木造大黒天立像(西大寺)、◎木造大將軍神像(大將軍八神社)</p>
5月9日(火)～5月27日(金) 展示替のため休館		絵画	<p>4月23日(土)～5月22日(日) 南陳列室</p> <p>○釈迦三尊像(総持寺)、◎阿弥陀五尊像(一乗寺)、◎普賢菩薩像(当館)、普賢十羅刹女像(当館)、法華経曼荼羅(当館)、諸觀音図像(当館)、覚憚抄(勸修寺)、◎千手觀音像・木造觀音立像(当館)、法華曼荼羅(下部神社)、◎五大明王像(觀音寺)、山王曼荼羅(当館)、天川曼荼羅(能満院)、◎聖德太子及び天台高僧像(一乗寺) 【写真】は聖德太子像</p>
特別展「運慶・快慶とその弟子たち」 5月28日(土)～7月3日(日) 月曜日休館	<p>【主な出陳品】(陳列期間の限られる作品がありますので、別に作成する陳列替表でお確かめ下さい。)          ○木造地蔵菩薩坐像(瑞林寺)、◎木造法相六祖坐像のうち善珠・行賀像(興福寺)、◎木造伎楽面のうち力士(神童寺)、◎木造維摩居士坐像(興福寺)、◎木造舞楽面のうち散手(春日大社)、◎木造大日如来坐像(円成寺)、◎木造不動明王立像(淨樂寺)、◎木造八大童子立像のうち制多迦童子、矜羯羅童子、恵光童子、清淨比丘像(金剛峯寺)、◎木造制多迦童子立像(願成就院)、◎厨子入木造大日如来坐像(光得寺)、◎木造帝釈天立像(瀧山寺)、◎木造阿弥陀如来坐像(松尾寺)、◎木造阿弥陀如来立像(八葉蓮華寺)、◎木造阿弥陀如来立像(安養寺)、◎木造阿弥陀如来立像(西方院)、◎木造阿弥陀如来及両脇侍像(光台院)、◎木造阿弥陀如来坐像(耕三寺)、◎木造菩薩面(淨土寺)、木造大日如来坐像(石山寺)、◎木造地蔵菩薩立像(東大寺)、木造阿弥陀如来立像(大円寺)、木造地蔵菩薩立像(藤田美術館)、◎木造金剛薩埵坐像(隨心院)、◎木造孔雀明王坐像(金剛峯寺)、◎木造不動明王坐像(醍醐寺)、◎木造不動明王坐像(正寿院)、◎木造四天王立像(金剛峯寺)、◎木造深沙大將立像(金剛院)、◎木造僧形八幡神坐像(東大寺)、◎木造十大弟子のうち目犍連・優婆離立像(大報恩寺)、◎木造阿彌陀如来及両脇侍像(桑原区)、◎木造大日如来坐像(修禪寺)、木造阿彌陀如来三尊像(保寧寺)、◎木造厨子入藏王権現立像(如意輪寺)、◎木造那羅延堅固王・密迹金剛力士立像、婆蘗仙人立像(妙法院)、◎木造毘沙門天及両脇侍立像(雪蹊寺)、◎木造善妙神立像(高山寺)、◎木造白光神立像(高山寺)、◎木造狛犬(高山寺)、◎木造愛染明王坐像(神護寺)、◎木造太山王坐像(白毫寺)、◎木造四天王眷属立像(静嘉堂文庫・MOA美術館ほか)、◎木造准胝觀音菩薩立像(大報恩寺)、木造毘沙門天立像(東京芸術大学)、◎木造阿彌陀如来立像(阿弥陀寺)、木造金剛薩埵坐像(円教寺)、◎木造俊乗人坐像(東大寺)、◎法華経巻第八(個人)、南大門金剛力士像納入文書(東大寺)          (出陳総数66件&lt;101点&gt;、うち国宝8件&lt;14点&gt;、重要文化財46件&lt;72点&gt;)</p>	書跡	<p>4月23日(土)～5月22日(日) 北陳列室</p> <p>○筑前国嶋郡川辺里戸籍断簡(当館)【写真】、造仏所作物帳断簡(当館)、◎東大寺開田図のうち越中国磯波郡石粟村官施入田図、越前国坂井郡高串村東大寺大修多羅供分田図(当館)、◎造東大寺司請経牒(当館)、阿闍世王經(五月一日経)(当館)、◎弘福寺牒並大和国判(当館)、◎西大寺三宝料田畠目録(西大寺)</p>
六月		工芸	<p>4月23日(土)～5月22日(日) 北陳列室</p> <p>○鉄宝塔(西大寺)、黒漆四方殿舍利厨子(能満院)、刺繡種子阿弥陀三尊像(当館)、黒漆螺鈿卓(当館)、◎金銅蓮華文透影華鬘(神照寺)、◎五大獅子如意(東大寺)、菩提子水晶念珠(当館)、◎黒漆螺鈿念珠箱(当麻寺)、◎金銅蓮華形磬(赤松院)、◎金銅錫杖頭、◎金銅迦陵頻伽文透影華鬘(中尊寺)、◎木製蓮華文彩色華鬘(靈山寺)、◎金銅宝相華文透影華籠(神照寺)、竹製華籠(性海寺)、銅金山寺香炉(長谷寺)、◎堆朱香盆(聖衆來迎寺)、堆朱牡丹文香合(当館)、◎銅三具足(聖衆來迎寺)、黒漆大般若經厨子(当館)、◎金銅千体阿弥陀懸仏、◎十二尊鏡像、◎山王十社懸仏(当館)</p>
		5月23日(月)～5月27日(金)は展示替のため休館	
		5月28日(土)～6月26日(日) 南陳列室	<p>5月28日(土)～6月26日(日) 北陳列室</p> <p>特集展示「法華経」</p>
			<p>○釈迦八相図(大福寺)、◎釈迦三尊像(当館)、◎当麻曼荼羅(当館)、◎九品来迎図(滝上寺)、◎觀経十六觀想図(阿弥陀寺)、◎阿弥陀來迎図(心蓮寺)、◎一遍聖絵(歡喜光寺・清淨光寺)、◎両界曼荼羅(園城寺)、◎尊勝曼荼羅(園城寺)、◎千手觀音像(当館)、◎五大明王像(一乗寺)、◎不動明王八大童子像(当館)、◎毘沙門天像(知恩院)、◎嘉承大師・淨影大師像(東大寺)、◎慈恩大師像(興福寺)、法相曼荼羅(薬師寺)、◎香象大師像(東大寺)、大智律師像(西大寺)</p>
			<p>○黒漆密觀宝珠嵌装舍利厨子(般若寺)、黒漆春日神鹿舍利厨子(当館)、○鉄宝塔(西大寺)、獅子座火焔宝珠形舍利容器(金剛寺)【写真】、◎金銅蓮華文透影華鬘(神照寺)、金銅宝相華文線刻如意(当館)、◎金銅柄香炉(高山寺)、◎銅草花文磬(峰定寺)、黒漆磬架(当館)、金銅錫杖頭(施無畏寺)、◎木製蓮華文彩色華鬘(靈山寺)、◎金銅宝相華文透影花籠(神照寺)、◎紙胎彩色華籠(万徳寺)、◎金銅裝輪宝羯磨文戒体箱(金剛寺)、◎金銅宝相華文透影経筒(万徳寺)、◎黒漆孔雀文沈金経櫃(淨土寺)、◎金銅密教法具(巖島神社)、◎金銅四大天王五鉢鏡(当館)、◎銅鐸口(長谷寺)、◎銅梵鐘(当館)、◎阿弥陀如来鏡像(当館)</p>

## 講座 特別展「運慶・快慶とその弟子たち」

- 6月4日(土) 慶派と鎌倉彫刻  
6月11日(土) 淀慶とその時代  
6月18日(土) 鎌倉彫刻における運慶の位置  
6月25日(土) 快慶の造像世界

- 東京国立文化財研究所長 西川杏太郎  
武蔵野美術大学教授 田辺三郎助  
慶應義塾大学名誉教授 西川 新次  
主任研究官 井上 一稔

午後1時30分より、講堂で開催。午後1時開場、先着120名。聴講無料。

## ギャラリートーク

- 4月27日(水) 密教の絵画(本館第1室)  
5月11日(水) 供養具と荘嚴具(新館北陳列室)  
6月8日(水) 慶派の彫刻(本館第1室)

- 美術室長 梶谷 亮治  
工芸室長 阪田 宗彦  
美術室研究員 磯波 恵昭

午後2時より、陳列室で開催。入館者は聴講自由。原則的に毎月第2水曜日に開催。

## 親と子の文化財教室

平成6年度〈奈良時代の歴史と美術—大仏造立のころ—〉主催・当館 後援・奈良県教育委員会

平城京が都であった奈良時代には、奈良は国際都市で、政治・文化の中心でした。東大寺や興福寺を初め、大きな寺がつぎつぎと建てられ、たくさんの仏像や美術品が作られました。

この教室は、奈良時代の歴史や美術について学び、遺跡やお寺を見学しながら、大切に守られてきた奈良時代の文化財について考えてみようというものです。

〈年間予定〉

- 5月14日(土) 奈良時代の歴史  
6月11日(土) 奈良の都—平城京のはなし—  
7月9日(土) 大仏造立  
8月6日(土) 天平の美人—奈良時代の絵画—  
9月10日(土) 奈良時代の仏像  
10月8日(土) 正倉院の宝物  
11月12日(土) 正倉院の校倉—宝物はどうして伝わったか—  
12月10日(土) 発掘された寺院の宝物—東大寺と国分寺—  
1月14日(土) お経を写す

- 主任研究官 西山 厚  
主任研究官 前島 巳基  
主任研究官 井上 一稔  
学芸課長 河原 由雄  
美術室研究員 磯波 恵昭  
工芸室長 阪田 宗彦  
普及室長 関根 俊一  
考古室長 井口 喜晴  
主任研究官 西山 厚

〈対象〉 小学5・6年生、中学生および保護者等。児童・生徒のみの参加  
及び定員に余裕のある場合は高校生の参加も可。

〈時間〉 午前10時から12時。

〈場所〉 当館講堂・展示室ほか(現地見学もあります)。

〈定員〉 50名(先着順)。

〈参加料〉 無料(ただし見学料金等が必要な場合があります)。

〈申込方法〉 往復はがき(または電話)で、住所・氏名・学校名・学年・

電話番号・同伴する保護者等の氏名・実施日とを記入のうえ、

〒630 奈良市登大路町50 奈良国立博物館 親と子の文化財教室係

☎0742-22-7771 までお申し込み下さい。



## 予告 夏季講座

平成6年度「薬師寺の歴史と美術」

〈日程〉 8月2日(火)~4日(木)

〈内容〉 今年度は、奈良・薬師寺の歴史と美術をテーマに実施する予定です。現地見学も含みます。

〈申込み〉 詳しい内容及び聴講者の募集方法は、「国立博物館ニュース」6月号に掲載の予定です。

実施・募集要項を郵送ご希望の方は、「夏季講座要項請求」と明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室宛ご請求下さい。6月中旬頃配布予定です。

## 佛教美術資料研究センター利用案内

当館には、佛教美術を中心とする美術工芸品や考古遺品の保存・展観に伴う調査研究によって集積された、佛教美術研究の基礎資料が大量に保管されており、日々増加しつづけています。当センターではそれらの整理に努め、整理を終えた資料については、研究のために活用されるよう、館外の方々にも公開しています。

〈利用日時〉 毎週水・金曜日 午前9時30分～午後

4時30分

(国民の祝日および12月26日～1月4日の間を除く)

〈資料内容〉 **図書** 佛教美術・考古に関するものを中心、周辺分野の図書。

**雑誌等** 美術史に関する学術雑誌をはじめ、大学等機関の研究紀要などのバックナンバーを揃えています。

**写真カード** 当館に原板を保管している写真をカードに貼付したもの。まとめた内容としては、当館の所蔵品、当館での特別展出陳品、国宝・重要文化財指定の佛教美術などがあります。

〈受付〉 当館事務所で所定の手続きをおえてから、センターへおこし下さい。



### ハイビジョンギャラリーの御案内

新館1階ロビーのハイビジョンコーナーでは、臨場感あふれるクリアな映像と、わかりやすい解説で文化財の紹介をしています。現在、「奈良国立博物館の名品」を、彫刻・絵画・工芸・考古・書跡の各分野でそれぞれ製作を進めており、順次放映してゆく予定です。ご期待下さい。

### 八窓庵茶室の公開

〈公開日〉 新館開館中の毎週木曜日（ただし雨天の場合は公開しません。）

〈公開時間〉 午前10時より午後3時まで

入館者は、自由に見学して頂けます。新館東南側の扉より表示にしたがってお進み下さい。

\* なお、茶室の使用については、当館管理課までお問い合わせ下さい。

### お知らせとおことわり

当館では、新館東側に「第2新館」の建設を進めております。しばらくの間、ご迷惑をおかけしますがご了承下さい。工事期間中は、長期の休館はせず、特別展をはじめ各種の展観は例年通りに行う予定で、充実した展示を心がけて行きますので、今後ともよろしくお願ひいたします。なお、博物館事務所は、旧事務所東側に移転しました。

**開館時間** 午前9時より午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

**休館日** 月曜日（月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館）

**観覧料金**（特別展料金で平常展も観覧できます。団体は責任者が引率する20名以上。）

特別展		大人	高・大生	小・中生
一般	790	450	250	
団体	530	250	130	

平特常展示		大人	高・大生	小・中生
一般	400	130	70	
団体	200	70	40	

毎月第2土曜日は、小・中学生無料（正倉院展・共催展等を除く）。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月の各1日に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレfonサービス0742-22-3331 **奈良国立博物館**